

---

● 営業マンレポート ●

---

★ 織田 康彦（おだ やすひこ） 担当エリア： 札幌市内（手稲区他）小樽後志・苫小牧方面 ★

【 担当営業から 】

入社 19 年目の織田と申します。実は入社以来勤務先は札幌一筋、一度も転勤を経験しておりません。会社でも天然記念物の称号を頂いており、毎年 3 月には人事発令に怯えている今日この頃です。趣味は 3 年前からマラソンを始めており、最初は健康維持の為に軽い気持ちで始めましたが、思いのほか長続きしております。お陰でマラソンを通じてとてもお近づきになったお客様も多く、公私共に欠かせないライフワークの一つになりつつあります。

さて今回は世話人の船山様からも次号ご紹介がありますが、勤医協中央病院様をご紹介させていただきます。新築移転に伴い CTをはじめ、バイプレーン ANGIO、DR 装置など多くの装置をご導入頂きました。5 月 7 日の OPEN より 1 ヶ月程経過しており、柏樹副部長よりお話を伺ってまいりました。



5 月 19 日洞爺湖マラソンにて

【 お客さま紹介 】 公益社団法人 北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院

今回は、38 年間診療を行なった隣接地に新築移転をした勤医協中央病院をご紹介いたします。

1975 年に北海道勤医協のセンター病院として多くの専門医を有する地域の中核病院として発展してきましたが、施設や設備の老朽化がすすみ、時代の変化に対応した救急医療に対応の出来る 450 床の病院としてとして新築移転をされました。

公益社団法人として認可されており、無差別・平等の医療をめざす設立の理念に立ち、無料・低額診療なども行なっています。差額ベット料金を請求していない数少ない病院のひとつでもあります。

ホームページ : <http://www.kin-ikyo-chuo.jp/>



旧病院の正面玄関



新病院の正面玄関

【 お客さまインタビュー 】 公益社団法人 北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院  
放射線部 副部長 柏樹 力 様



Ultimax-i 操作卓にて撮影

□柏樹副部長の経歴を教えてください。

1978年 北海道大学医学部附属診療放射線技師学校 卒業  
勤医協中央病院、勤医協苫小牧病院、勤医協札幌病院を経て、1996年より勤医協中央病院勤務、  
2004年より現職。

☆今回のインタビュー内容は新規導入後、気付いた点を装置毎にご質問いたしました。

□Cアーム型 DR 装置 Ultimax-i についてお聞かせ下さい。

腹部・下肢治療メインで、呼吸器、外科、シャント PTA などの運用。近年 CT の検査診断精度の向上により、近年は治療がメイン。腹部は、経カテーテル的肝動注療法 (TAI)、肝動脈塞栓術 (TAE)、脾動脈の塞栓術、コイルなどの止血に使用。

旧装置は同じく Cアームタイプの装置を使用しておりましたが、画質優先し 12 インチ I.I-DR を選択。

FPD になって線量を抑えても画質を維持出来るので被ばくの低減が出来ると思います。

又、当院では難しいですが、消化器系の内視鏡治療や造影検査などにもぜひ使ってみたい装置です。



□検診用 DR 装置 Raffine についてお聞かせ下さい。

上部検診に特化。検診は月 100 件程度の検査数。

旧病院より同タイプの装置を使用しているため、大きく変わった点はありませんが、DR 装置が 2 台から 3 台になった事で検診専用に Raffine を使用出来るメリットがあります。

価格帯もお手ごろで、コストパフォーマンスに優れている点も特徴です。

レイアウトも検診部門と検査部門を集中・選別した為、患者様と検診受診者の導線を分けることが出来ました。お金と場所に余裕があれば検診センター化したかったのですが、今回は叶わなかったのが心残りです。



□バイプレーン ANGIO 装置 Infinix-Celeve-i についてお聞かせ下さい。

2 台体制になった事で 24 時間 365 日稼動する事が可能になり、また臨時検査が受けやすくなったことが大きなメリットです。

特に透視画像がとても良く、動画ネットワークの Web 配信の機能も表示速度が速く好評です。

外資系メーカーの装置に比べて床置き型の 5 軸回転機構をもつ C アームは、全身の幅広い検査に対応できます。

また、バイプレーンの装置は、造影剤の使用を減らせると期待しています。



\*新規バイプレーン ANGIO

大型 56 インチモニタを搭載



\*既存シングルバイプレーン ANGIO は移設。

移設は新規よりも大変です。サービスマンには感謝です。

□今後新築移転を計画されている方々へアドバイスを聞かせてください。

予算に関しては特に苦労しました。なるべく多く獲得できる事に越した事はありませんが、予算に限界があったので、多くの装置を東芝に纏め予算圧縮に努めました。

予算の次に稼動している装置の見学やユーザーからとにかく情報を集める事です。

機種選定のポイントとしては、,,,,,

- ①既存装置を更新する際にも新築時を意識して機種選定をする。
  - ②病院の機能（急性期、慢性期 etc,,）に合った機種選定をする。などが挙げられます。
- 施設の特徴として、

- ①図書室に医学書を置き患者様に医療公開している。（NET 端末もあり）道内は日鋼記念病院様と当院のみ。
- ②災害時にも対応できる設計になっている。井戸水の利用、ソファがベッドになる、UPS 電源の設置 etc、、、。
- ③院内デザインでは、ゾーンごとに色分けをしており患者様にわかりやすい設計となっています。
- ④感染対策にも気を遣っており、特にトイレは、床の掃除をしやすいように、壁からの配管として掃除がしやすくなっています。
- ⑤スタッフ・患者さんの導線を最優先し、救急処置室に一般撮影室、CT 室を隣接した配置としました。



\*ゾーンごとに色分けしており患者様にわかりやすくレイアウト。



\*色分けすることにより、空間に奥行きを持たせている。



\*柏樹副部長お気に入りの待合、柱を有効に利用し、通行人とセパレート。



\*患者様に診察実施中の時間帯を全ての診察室に液晶パネルで表示。



\*災害時にはベッドに変身する待合ソファ。



\*感染対策にて、壁から配管し、床部分にクリアランスを設けた。

□最後に、ユーザー会へ一言お願いします。

ユーザー会の発足、おめでとうございます。

現在新築移転をご計画なされている御施設様は是非見学にいらして下さい。問い合わせでももちろん結構ですのでお待ちしております。

□編集後記。

この度は取材にご協力頂きました柏樹副部長に厚く御礼申し上げます。新築間もなく忙しい中時間を割いて頂き、感謝の言葉もございません。

実は OPEN 前の内覧会にも出席させて頂きましたが、たいへんな大盛況ぶりには驚かされました。ひとえに地域住民の皆様の期待度の表れと思っておりましたが、実際に診療開始後の院内も多数の患者様で埋め尽くされているのは言うまでもありません。

病院野理念でもある「急性期・救急医療、がん診療、そして専門的医療を柱に連携を推進する医療機関」、「全人的医療を実践できる医療人の養成」、「無差別平等の医療と福祉の実現」に当社が多少なりとも貢献出来ればこの上な

い喜びと思っております。

最後に社内事項で大変恐縮ですが、今回の新築移転計画の初動から昨年の3月までの約2年間に大きな貢献をした首都圏（東京）支社 営業 小林靖彦氏にも謝意を表させて頂き、今回のレポートを締めさせて頂きます。



内覧会は大盛況。船山様も CT 室ご説明要員としてご活躍。

今回の営業マンレポートは、5月7日に新築移転 OPEN した勤医協中央病院様取材をさせて頂きました。新築移転を控えたご施設様にとっては耳寄り情報が満載！必見のレポートです。